



東京多摩プロバスニュース

第 79 号

■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方 ■編集・発行: 広報委員会 2018. 7. 4.

■電話・FAX (042) 372-2238 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

ホームタウン多摩で楽しもう！

第 167 回 定例会

日 時 : 平成 30 年 5 月 9 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 木曽路

出席者 : 22 名(会員数 25 名)

第 168 回 定例会

日 時 : 平成 30 年 6 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

お客様 : 所敏行 様 伊藤健一 様

出席者 : 23 名(会員数 25 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



ありがとうございます奇跡の言葉

滝川道子地域奉仕委員長

「ありがとうございます奇跡の言葉」と言った人がおります。「ありがとう」には謙虚さがあり相手への敬意がある。口に出せば元気が出る。耳に入れば勇気が湧く。「ありがとう」を素直に言える人の心は健康である。「ありがとう」と言うたびに生命力が湧く。きちっと相手の目を見て言えれば最高———というのです。



私は、縁あって松本市の島立地区というところへ『江戸しぐさ』の講演に 3 年間伺う機会をいただき、『島立地区あいさつ声かけ運動の実践講座』という取り組みの中で、表題の「ありがとうございます奇跡の言葉」のテーマでお話をさせていただきました。町会ごとに集ってくださったのは 90 歳の高齢者から 4 歳までのお

子さんたち。皆さん熱心に聴いて下さり、笑いの中でお話し実演することができました。

『江戸しぐさ』には「お迎え三步・見送り七歩」という仕草(しぐさ)があります。ある大店(おおだな)の主人が始めた仕草で、暖簾をくぐってお店に入ってくるお客様へのお出迎えに身体が自然に三步動き、何も買わずに帰るお客様にも暖簾の外まで七歩お見送りして、「ありがとうございますございます、次のご来店をお待ちしております」と感謝の心を表わしたのです。「ありがとう」(有り難う)は「有ることが難しい」「滅多に無い」の意味です。



小野神社末社祭、宮入着輿の風景

数多ある店の中から自分の店を選んで足を運んでくださったお客様に、「滅多に無いこと」と感謝を込めて述べる言葉が「ありがとう」なのです。“自分がどんなに沢山の人や物に支えられて生きているか、ありがたいことだ”と思うその自覚が、その喜びが、さらに幸せを呼ぶのだと思います。わが家のなかに家族がたがいに思い遣りやり合う「ありがとう」の心が満ち溢れていること、それが家庭の幸せではないでしょうか。多摩プロバスクラブの皆様と地域の皆様のご家庭が、奇跡の言葉「ありがとう」で一杯になりますようお願いしております。

1. 幹事報告

鈴木泰弘幹事

1.1. 第15期に向けて

来期への移行スケジュールに基づき、3、4月中に理事、監査役ならびに全員の担当を決定した。7月の定期総会にて承認を得たい。また数回の合同理事会を開催、第15期の活動計画を策定のうえ、6月中旬に議案書を完成させ、総会にて配布することとする。

1.2. 東京八王子PC生涯学習サロン閉講式

2月に開講した学習サロンが5月10日に閉講式を迎え、当クラブから西村政晃会長、鈴木泰弘幹事、登坂征一郎委員長、北村克彦会員の4名が出席した。フェアウェルパーティでは、14名の男性会員の合唱団、女性会員のハワイアンダンスの披露等で大いに沸かせた。

1.3. 退会 古澤靖雄会員より一身上の都合で退会したい旨の表明があった。第1期より会計、幹事として活躍し、長年に亘り「そろばん授業」の地域奉仕活動を続けてこられました。

1.4. 15周年記念事業プロジェクトのスタート

PJリーダー西村政晃会長、メンバー上田清、大澤亘、北村克彦、倉賀野武士各会員でスタートした。顧問：澤雄二次期会長、鈴木泰弘幹事。 関連記事；右の段参照

1.5. 見学者 所敏行氏（滝川益男・鈴木達夫会員紹介）、伊藤健一氏（村上伸茲・滝川道子会員紹介）のお二人が6月6日の定例会を見学された。ご入会歓迎したい。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木達夫委員長

1) 第167回定例会

木曾路で昼食会を実施、参加者22名、引き続き「第15期」各委員会の活動方針、その他 関連記事P3参照

2) 第168回定例会

DVDの鑑賞；NHK BS「東京タイムカプセル」多摩市版。 関連記事P3参照

2.2. 研修・親睦委員会

秋山正仁委員長

1) 横浜プロバス倶楽部のバーベキュー大会に参加して

今回、横浜PCの第4回目の金沢八景野島公園のバーベキューの会(16名参加)に5月31日(木)午前11時より当クラブ滝川益男会員と私の二人が招かれて参加致しました。

小雨の中、二か所の炉でお肉や野菜、焼きそば等の焼き物の美味しさは格別でした。日本酒、ワイン、また沢山のビールの差し入れや三時間以上も懇談しながらの交流は、



2018/05/31 12:51:36
横浜プロバス倶楽部のバーベキュー大会にて

これぞ健康長寿の秘訣です。

第5代幹事長の関さんには、写真やら、会員の米国政府職員のダニエル T. 山田さんを紹介して下さいました。多摩PCで卓話・講演をお願いした場合喜んで来て下さるとの事です。たくさんごちそうになり有難うございました。

来年は多摩PCで他のPCの皆様を招けるような企画をしたいと決意した所です。

2) ホタル観賞会

梅雨には珍しく晴れた6月24日(日)、都立桜が丘公園でホタルを鑑賞しようと会員9名(高村弘毅、大沢亘、鈴木達夫、秋山正仁、滝川益男、小西加葉子、伊藤健一夫妻、北村克彦各位)が集まった。

美しい夕焼け空から月と星が輝きを増すにつれ、周囲の木立に蛍の光が舞い始めた。子供連れの家族も多かった。私たちも、少しばかりビールでのどを潤しながら、浮世離れたひと時を楽しんだ。

2.3. 広報委員会

登坂征一郎委員長

1) プロバスニュース第79号の編集と発行配布

会員各位から寄稿頂き5月25日、6月25・29日の編集会議で最終校正校閲を実施、7月4日定例会で発行配布

2) ホームページ定期更新 7月10日予定

3) 会員各位の積極的な寄稿を歓迎いたします

3. 創立15周年記念事業計画の推進 西村政晃会員

当クラブは明年(2019年5月)、創立15周年を迎えます。創立15周年は創立5周年・10周年とは異なり大きな節目に当たる年ではないだけに、①極力取り組みやすい事業、②会員の高齢化などに配慮した事業とする。③華美にならない内容とする。そして労力的、経済的に大きな負担にならない取り組みが重要になります。

事業計画の主な内容は次の通りです。

1) 記念式典・祝賀会の開催

・開催日 2019年5月15日(水)

記念式典 10:30~12:00；パルテノン多摩4階会議室

祝賀会 12:00~15:00；トレーノカフェ

招待者 多摩市、近隣PC等 約20名

2) プロバスニュース特集号の発行

・記念式典・祝賀会、当クラブの活動報告等を掲載

3) 多摩プロバス「寺子屋塾」の創設

・講座の開設

・講師の派遣(出前授業)

寺子屋塾の創設に向けて準備委員会を別途設置し、内容の具体化の検討を行う。

4. 全日本プロバス協議会常任理事会報告

中村昭夫会員

5月29日全日本プロバス協議会常任理事会の報告

1) 第8回(2018年)全国大会・総会開催計画

①実行委員会：三重県内の5PCの共催(鈴鹿西PC、伊勢はまゆうPC、四日市南PC、松坂・鈴PC、三重九華PC)

②開催日時：平成30年11月28日(水)、13:00~18:00

◆◆◆ 幹事・委員会報告(つづき) ◆◆◆

- ③三重県 四日市都ホテル(鈴鹿の間・伊勢の間)
- ④大会スローガン:「美し国 みえで プロビアン交流の輪 もっとひろがれ」
- ⑤参加費:会員1名につき10,000円
- ⑥総会:事業報告・決算報告および次年度計画、新役員選出、規約改定など
- ⑦記念講演:本居宣長記念館館長 吉田悦之氏「本居宣長と松坂」
- ⑧懇親会:三重県知事挨拶、アトラクション
- 2)第9回(2020年)全国大会・総会予定;青森大会の開催計画(ホストクラブ:青森五所川原PC、旭川PC)
- 3)交流会;各地域、各ブロックにおける交流会の開催
・ブロック:東北・北海道、関東、中部・三重、近畿・

- 四国、中国・九州の5地域
- 4)新規取組事項
 - ・各地域のロータリークラブとの連携強化し、プロバスクラブ設立をアプローチ
 - ・全日本としての財政基盤の確立の検討
- 5)新役員候補(案)
 - ・現時点の本部機能;横濱PCが会長、幹事長、会計を担当。副会長;八王子PC、北九州PC、旭川PC、大阪PCの4名。常任理事;各ブロックより1名
 - ・次年度('18年12月~'20年11月)は、本部的機能;北九州PCに移管、会長:古賀現副会長、幹事長:松本常任理事とする案の審議を実施。
 - その他の役員は次回常任理事会で選任案を提出する。

◆◆◆ 昼食付定例会とビデオ鑑賞 ◆◆◆

1. 昼食付定例会

大澤亘会員

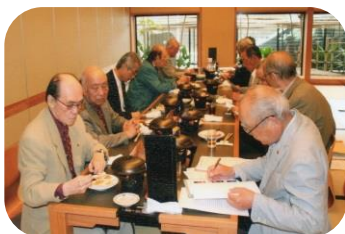
今年度の昼食付定例会は5月9日(水)、関戸6丁目の「木曾路多摩店」で開催された。当店で昼食付定例会を行うのは平成25年3月の第105回定例会以来2回目である。

昼食付定例会のこれまでの状況をプロバスニュースのバックナンバーから辿ってみると、定例会活性化策の一つとして定例会を昼食付とする案が、初めて実行されたのは7年前の平成23年2月の第80回定例会で、会場は永山情報教育センター内の和食料理店「美膳」であった。以後、毎年度継続して実行され、今回は8回目である。

開催時期については、年度開始間もない10月が3回、冬季の2、3月が各1回、年度末に近く新緑の5、6月が計3回となっている。

会場は今回の木曾路のほか、旭鰯(3回)、赤坂飯店、三笠会館など関戸公民館周辺の和洋中レストランが選択されている。また、当日の定例会の行事をみると、会員の全員参加による座談会が4回あり、そのテーマは「エコ活動への取り組み」「長寿の秘訣」「これからのプロバスに期待するもの」「プロバスライフを楽しむには」などであった。ほかに専門家を招いての「男のおしゃれ教室」「会員による卓話」および年度末を控えて「新年度所属予定の委員会ごとの活動方針打合せ」などがあった。

今回も各会員が新年度所属予定の委員会ごとに着席し、午後0時30分から会長挨拶、誕生祝い、昼食会のあと新年度活動計画について委員会ごとに意見を交換し、午後3時に閉会した。



木曾路での昼食会風景

2. ビデオ鑑賞「東京タイムカプセル多摩市版」

鈴木達夫総務委員長

6月6日(水)第168回定例会において、1月に放映されたNHK BS「東京タイムカプセル」多摩市版のDVDを鑑賞した後、約30分間感想を述べ合った。

東京都のほぼ中心に位置する多摩の縄文時代から鎌倉時代、ニュータウンの歴史などが紹介されている。

ビデオのレポーターは俳優の高島礼子さん。



ビデオ鑑賞風景

- ・400年続く桜が丘の麓、原峰地区の農家井上庄吉氏(98歳)は現在も元気でシイタケを栽培し、縄文時代の数多くの石器を畑から収拾して保存している。
- ・鎌倉時代の街道、旧鎌倉街道は霞が関の関所跡が保存され、新田義貞が戦った戦場です。
- ・大正時代から続く小山酒店は全国の酒500種類の地酒を用意され、現在も近郊の客で繁盛している。地域交流の場から生活用品も販売し消費者宅に届けている。
- ・旧聖蹟記念館は、多摩市教育委員山崎和巳氏の説明により、明治天皇が明治14年から4回兎狩り、鮎釣りなどをされた。旧聖蹟記念館は円形で展示ホール中央に明治天皇騎馬像が列柱で囲まれている。田中光顕が提供した収蔵作品がギャラリーに展示されている。
- ・昭和42年に多摩丘陵に日本一の多摩ニュータウン3000ヘクタール、30万都市計画。

住宅公団大石武朗氏監修、歩道と車道を分離する計画によって、豊ヶ丘から多摩センター3kmは歩道でつながり、メタセコイア・桜・イチョウ・モミジバフウ等の街路樹の四季折々の景観に市民は癒されている。

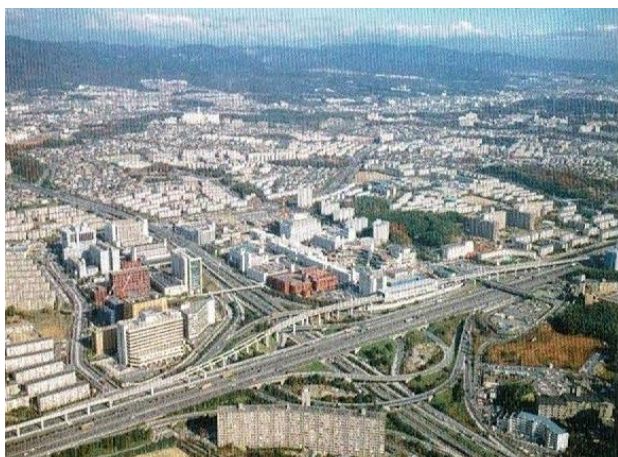
「耳をすませば」アニメ映画は、いろは坂周辺で撮影された。多摩市はアニメの街でもある。歴史とアニメ映画の街に感動したドラマでした。

「ニュータウン誕生」(パルテノン多摩歴史ミュージアム連携展示) 山田正司会員

「千里&多摩ニュータウンに見る都市計画と人々」と言う副題のもと、本年3月3日(土)~5月27日(日)にパルテノン多摩ミュージアムで、多摩ニュータウンと千里ニュータウン(以下NT)の誕生に係わる特別企画展が開催された。たまたま私は主催事務局から事前の多摩ニュータウン開発を巡る経緯座談会(当時の関連専門家5名)に団地設計の立場で召集され、その折の撮影ビデオが展示場で放映された縁でここに企画展を紹介することとなった。

ご存知、我が国戦後の急速な復興期に都市部の深刻な住宅難に伴い、大量供給のためのNT建設は全国各地で行われた。本格的NT第1号が千里NT(昭和37年入居開始、規模約1000ha)で、最大規模が多摩NT(昭和46年入居開始、規模約3000ha)である。この二大NTがいかに計画されて実現し、入居する人々のコミュニティーはどのように扱われたかなどを比較、客観視することでそれぞれのNTの特色を自覚し今後の課題とすることが企画展の大きな目的であった。

千里NTの展示コーナーでは、英国で始まったNTの歴史的背景から、近隣住区論の解説など日本での第1号としての理論構築、骨格構造模索の過程が展示された。そして開発が大阪府企業局の主導で、都心の北約15kmの千里丘陵の雑木林等で開発の遅れた地域が選ばれ、人口15万もの計画都市は学会や大学研究室への調査依頼を経て、昭和35年にマスタープランが決定した経緯が示された。我が国最初の大規模NTと云うことで、英国の事例;ハーローNTに範をとったとの説明もあった。あくまでも住宅難解決を主要目的として、主に中・低所得者を主要対象とし、安定した住宅地区の形成と共に独自の文化的性格を持つように計画されている。



千里ニュータウン中央地区センター

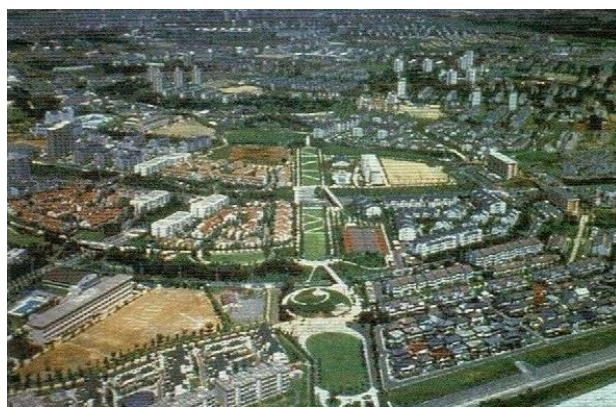
開発事業は昭和36年に起工し、昭和45年には事業が終了している。NTでの人々の暮らしは、初期入居の様子や市民文化の展開が展示された。公営住宅故の簡易型ユニットバスを自宅に設置した写真等はとりわけ印象的であった。短期間での事業化はオールドタウン化も早く、1980年代の

近隣センターの疲弊、狭小住宅による子供の転出等団地再生の必要性が早まった。

21世紀に入ると吹田、豊中市の「街づくり指針」、耐震構造への転換などで建て替えが活発化する。現在では集合住宅の6割が建替えられ、5階建ては高層住宅化して人口も増え小学児童数も増加傾向とのことである。立地に恵まれてたえず新陳代謝を繰り返し、どこまでも日本最初のNTとして実験的な変貌を続けるだろうとのことである。

一方、多摩NTの展示コーナーは、先ず戦後における都心の深刻な住宅難の状況展示に始まる。東京都の首都圏整備局対策試案の紹介もあった。興味深いのは昭和35年(1960年)、都に首都圏整備局が発足し、初代局長となった山田正夫氏(その剛腕ぶりで山田天皇と呼ばれた)による小室レポート(集団的宅地造成に関する報告者)なるものが多摩NT計画の先駆けとなったとのことであった。多摩NTの開発過程は、当ミュージアムの常設展示で日頃から学ぶことができる。

従って今回の企画展ではNTに関わった人々の話が主体的に扱われていた。冒頭で述べた「開発を巡る座談会」の収録ビデオもテーマごとに4か所に分かれて放映されていた。



多摩ニュータウン落合・鶴牧地区

東京都、多摩市、住宅公団の元職員、私のような民間技術者が当時を振り返っての生の話は、企画展ならではの成果であろう。例えば三事業者(都、公社、公団)の協力と分担の苦労話、地主からの用地買収と葛藤、計画段階での自然地形案の不採用、初期入居時の住民の苦労話等々、改めて多摩NT理解に役立ったことであろう。

これからの課題として多摩NTは千里NTに比べて住宅の建替え等いわゆる団地再生はあまり進んでいない。千里NTの方が開発時期、完了共に早く公営住宅などの賃貸比率が高かったことが主な要因と考えられる。しかし逆に多摩NTは、先例から多くを学びかつ長い時間をかけて改善、進歩を繰り返し、さらに時代ごとに全国最先端のアイデア、技術が投入されたことを大いに誇るべきであろう。多摩NTの優れた基盤整備や街の安全性、豊かな自然や美しい住まいの景観は、どこにも引けを取らないものとして磨き続けるべき資産と考えられる。

◇◇◇ 鎌倉プロバスクラブの紹介 ◇◇◇

近隣プロバスクラブとの交流会をはじめ、卓話やゴルフ、囲碁、俳句などの交流がなされるようになり、相互のクラブの活動に関心もたれるようになってきました。更に深めるべく近隣プロバスクラブのプロフィールを紹介させていただきます。今回は鎌倉プロバスクラブです。

鎌倉プロバスクラブは、2001年12月に鎌倉西ロータリークラブの援助で誕生し、地域に根差した独自の活動を続けて、本年で17年を迎えます。国際交流活動としてニュージーランドプロバスクラブや南インドプロバスクラブとの交流をはかっています。当多摩プロバスクラブとは、平成29年6月21日(水)に23名の当方会員が訪問交流しました。

鎌倉プロバスクラブは、ホームレスの方への支援、子供食堂への支援、被災者への支援と地域に根差した事業を展開されており、また、旅行会、見学会、芸術鑑賞、グルメ、忘年クリスマス会など親睦行事に趣向を凝らしています。

会員数は35名で、例会をはじめ、各種同好会、ゴルフコンペ、毎月順番に自らの生い立ち、仕事、趣味、その時の関心事などの10分間スピーチや、皆で歌う「私の愛唱歌」などがあり、また、鎌倉プロバス混声合唱団は市のイベントや福祉施設訪問など多彩な活動をされています。

*会長；正親睦弘氏

副会長(3名)；楠本保・藤沢慶彦・渡壁福三各氏

*例会；毎月第2金曜日 11時30分～13時30分

(会場；鎌倉プリンスホテル・バンケットホール)

*連絡先；TEL；0466-25-3796

*例会のプログラム

・クラブソング斉唱

・会長挨拶、お客様紹介

会長

・理事会報告、委員会報告、事務連絡など

・私のひとこと

会員

・昼食

・卓話・講演

会員またはゲスト

・皆で歌う[私の愛唱歌]

・閉会のことば

副会長

*会報；毎月発行 (内容；例会報告)

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

1. 高齢者への奉仕活動

中村昭夫会員

私は15年前に多摩男声合唱団のメンバーで男声カルテット「多摩ダンディーズ」を結成して市や公民館、コミセンなどの音楽行事で演奏するほか、高齢者施設に招かれて年8～10回ほど演奏活動を行っています。ダンディーズは平均年齢82歳ですので施設の方々とほとんど同じ年齢です。

施設での演奏会では皆さんがよく知っている歌謡曲やフォークソングを中心に曲目を選んで演奏しています。併せてプログラムの中で「皆で歌おう」を組んで、2、3曲会場の皆さんと一緒に歌う曲を入れています。この中で「いつでも夢を」という歌を必ず入れています。この歌を歌う時に皆さんに対して、どんな年齢になってもいつでも夢を追いかけていってください、それを達成できた時には大きな喜びが得られますとコメントしています。また大きな声で歌うことはリズム感も要求されるので脳を活性化させ健康にととても良い効果がありますと言っています。

高齢者が抱える問題点として、引きこもり、他人との交流不足、自分勝手の行動、楽しみ不足、体力低下などがあります。施設ではこの対応として一日一回の体操とダンディーズから教えられた歌を歌う会などを行って問題点の解決になるように訓練しています。人が生きていく上で楽しみや喜びを得ることは重要なことです。

多摩市は全国でも上位に入る高齢化率が高い都市です。高齢者の人たちがぼつんと一人で時間を過ごすのではなく、自分ができる範囲のことを社会のために費やすように仕向けてゆくことは大きな意味があります。

多摩プロバスクラブでは社会奉仕活動の一環として高

齢者施設を訪問し彼らと話し合いを行ったり、楽しみを提供したりして彼らを元気づけ、また世の中のためにできることをしてもらおう、などの行動を起こすことは意味があると思います。高齢者に生きがいを与える奉仕活動をクラブの課題として、皆で話し合って行動したいと提案します。

2. 第65回原生会絵画展

山田正司会員

標題の絵画展が4月7日(土)～11日(水)の5日間、ベルブ永山ギャラリーで開催されました。原生会は多摩地域の男性絵画愛好家の集まりで半世紀近くの歴史を持ち、会員数8名中当クラブからは岡野一馬・山田正司各会員が属していましたが、残念ながら岡野さんには今回は遺作展となりました。御夫人が選ばれた4号額4点が会場中央に、遺影、遺作画集「流れ」、思い出スナップ写真と共に展示されました。作品は中国シルクロード、コペンハーゲン、ミラノなどでのいずれも岡野さんらしい見事な作品ばかりでした。会期5日間で延べ550余名の方々が全会員の24作品を鑑賞してくれました。



岡野一馬氏の遺作作品4点と画集「流れ」と遺影

